

1.長期成長ビジョン

当社は安心・安全、資源循環型社会の形成に貢献し、企業としてさらなる環境と経済の持続的発展を目指す。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

当社の目指す企業像は、「地球と人々の未来を創造する考働企業」である。

有機溶剤の多くが使用後に焼却処分され、CO₂排出量が増えることにより地球温暖化の原因となっている。

当社のビジネスモデルである、精製リサイクル事業は、資源循環社会の形成（CO₂削減）に寄与する事業であり、事業発展することを通じて、地球環境の保全と持続可能な社会の構築に貢献していく。

今後は外発的動機を通じ、あらゆるモノづくり業界の使用済み溶剤を回収、精製、リサイクルすることで資源として完全に循環させることを目指す。

また、地球環境だけでなく、内発的動機にある、ウェルビーイング経営を推し進め、「働きがい」、「安全」、「思いやり」、のある職場環境も整備し、社員満足度の向上に努め、生産性向上を図る。

売上成長目標

【グループ全社】

2023年度：209億円→2029年度：500億円

- 2029年度までにグループ全体の売上高成長率239%
- 2029年度までにグループ全体の売上高増加額291億円

【日本リファイン（株）】

2023年度：121億円→2029年度 189億円

- 2029年度までに会社全体の売上高成長率156%
- 2029年度までに会社全体の売上高増加額68.4億円

外発的動機

世界市場において、車載用リチウムイオン電池の2019年は約4兆円、2030年には約33兆円、2050年には約53兆円の規模に達するとみられる。昨今、リチウムイオン電池メーカーから、欧州バッテリー規則に基づき、当社のNMPリサイクルに伴う、カーボンフットプリントデータの報告（燃料の燃焼によるCO₂の排出量および電気の使用によるCO₂の排出量）が求められるようになった。

また、CO₂排出量削減の観点から、お客様からの引き合いが2021年に比べ約1.5倍増加していることや、「地球温暖化対策計画」による閣議決定（R3.10.22）からも廃棄物焼却量の削減にともなう、廃溶剤のマテリアルリサイクル量の増加要請が高まっている。

（2013年度：490kt/2025年度：619kt/2030年度：716kt）

※マテリアルリサイクルとは、廃棄されたものを新しい製品の原材料として再利用する方法。

内発的動機

当社は、「人類が持続的に発展できる社会を実現するために『資源』、『環境』、『こころ』のリファインを業とし社会に貢献する」を企業理念とする。環境保全と経済成長の両立に貢献できる企業として、更なる社会貢献が可能であると感じている。

リファイン＝精製という意味であるが、当社のビジネスモデルである、有機溶剤の精製リサイクル事業にとどまらず、精製を通じ、CO₂削減によるカーボンニュートラル社会の実現に貢献する。

当社は、サステナビリティの一步先を行く、リジェネラティブ（環境と経済の持続的発展）を目指している。

また、従業員もより身体的、精神的、社会的に『こころ』が満たされるよう、ウェルビーイング経営を推し進めていきたい。